

令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人和歌山大学

1 全体評価

和歌山大学は、学術文化の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を研究、教授し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とし、社会に寄与する有為な人材を育成することを目指している。第3期中期目標期間においては、高野・熊野世界文化遺産等豊かな歴史と環境に育まれた和歌山県唯一の国立総合大学として、学術文化の中心としての使命と役割を担い、地域と融合し、地域の発展に寄与する学術研究を推進し、地域創生を牽引する人材を育成すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、地域共創拠点として「紀伊半島価値共創基幹」を令和2年4月に設置するとともに、アントレプレナー教育や大学発ベンチャーへの支援を行うなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 研究ユニット間の柔軟性を持たせ、より横断的な研究を推進するため、これまでの細分化された10の研究ユニットを「Management」「Community」「Culture/Heritage」の3つに再編し、サリー大学、クィーンズランド大学、セントラル・ランカシャー大学からそれぞれ招へいた研究者（特別主幹教授）を各研究ユニットのリーダーとしている。また、国連世界観光機関（UNWTO）及び観光庁と連携して「持続可能な地域ガバナンスのためのモニタリングツール開発と人材育成」をテーマに共同研究を進めたほか、世界最大の観光映像祭ネットワーク The International Committee of Tourism film Festivals（CIFFT）と連携して「第3回日本国際観光映像祭」を開催し、世界各国の映像クリエイター、研究者、産業関係者間で観光映像に関するパネルディスカッションを行っている。（ユニット「観光学教育研究水準の国際化」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善		○				
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでおり一定の注目事項がある

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、一定以上の注目すべき点があること等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○アントレプレナー教育と大学発ベンチャーへの支援

アントレプレナー教育の充実・多様化を図るため、令和2年度に県内外の民間事業者3社と起業支援及び教育の連携協力に関する覚書を締結し、共同で起業家育成教育を進める体制を整えたほか、産学連携イノベーションセンターによる「起業支援説明会兼ゼンパイ学生との交流会」や「香村賞ビジネスプランコンテスト」等の実施、客員教員や

弁理士資格を有する職員等による直接指導、「オープンイノベーション・ラボ」の開放等を実施している。これらの取組により、令和2年度には2件、第3期中では合計4件の大学発ベンチャーが設立されており、中期計画に掲げた目標を上回っている。

○ 外部資金比率（寄附金）の上昇

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により同窓会総会等が全て中止となったものの、同窓会の各支部長等との電話や郵送での連絡や、令和元年度から実施しているクラウドファンディング等により、寄附金収入は第3期中で最高の約1億6,100万円（対前年度比約4,541万円増）となり、外部資金比率（寄附金）が2.3%に上昇している。

（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（4）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 地域共創拠点の形成

地域とのパートナーシップの下、課題解決に向けた取組の推進や共同研究等によるプロジェクトの成果を社会に実装していくため、令和2年4月に全学を挙げて地域連携を強化する組織として「紀伊半島価値共創基幹」を設置し、地域連携をマネジメントする人材として「プログラムオフィサー（地域版リサーチ・アドミニストレーター（URA）」を配置している。また、同年4月から和歌山市観光課、同年8月から和歌山県社会福祉協議会よりそれぞれ研究員を受け入れており、自治体等とのマルチパートナーシップによる地域ニーズに応じた研究成果の社会実装を推進している。

○ オンラインを活用したキャリア支援の推進

新型コロナウイルス感染症の影響がある中、キャリアカウンセラーによる就職相談のオンライン化、アンケート等による学生の状況把握とキャリアカウンセラーの働きかけによる就職相談、企業主催のオンライン説明会の情報提供（110社）、オンラインによる業界・企業研究セミナーや学内合同企業説明会等を実施している。これらの取組により、令和2年度の就職率（就職者数／就職希望者数）は約98.0%となっている。